

## 報告文献別一覧表(2004/12/01~2005/03/31)

番号	感染症	出典	概要
1	A型肝炎	aaBB Association Bulletin, #04-08 2005.1.24	米国血液銀行協会は血液採取施設に対してA型肝炎ウイルス流行時に地方自治体の保険当局が行う具体的な措置にしたがって、供血延期措置を実施するよう勧告した。
2	A型肝炎	AABB WEKLY REPORT,10(44)3.2004	米国血液銀行協会は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルスの流行に暴露された可能性のある供血者の取り扱いについて、HAVに暴露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。
3	A型肝炎	CDR Weekly, 14(39), 2004/09/23	エジプトへ旅行したドイツ人において22例のA型肝炎が報告された。
4	A型肝炎	ProMED	小児13名を含むロシアのPavlo-Fyodorovki村住民16名が、A型肝炎ウイルス感染と診断が確定
5	A型肝炎	ProMED	サウジアラビアでA型肝炎患者10名が、Asirの沿岸地区の村落や学校から報告された。
6	A型肝炎	ProMED	A型肝炎が、ロシアのKaliningrad地域住民に深刻な被害をもたらしている。
7	A型肝炎	Transfusion, 2004, 44, 1555-1561	スイスにおいて、献血後にA型肝炎を発症した供血者と供血者からの赤血球の輸血を受けた受血者について、RT-PCRを行ったところ、両者から検出されたHAV-RNA解析結果が同じであり、輸血によるHAV感染が証明された。
8	A型肝炎	英HPA-CDR Weekly	エジプトへの旅行歴のある6例のA型肝炎感染が英イングランドおよびウェールズにおいて8月末~9月末に報告されている。
9	A型肝炎	英HPA-CDR Weekly	CDSCIにA型肝炎の検査報告がされている。
10	A型肝炎	英HPA-CDR Weekly	ロンドン南東部の男性と性交渉を持つ男性におけるA型肝炎のアウトブレイクが確認された。
11	B型肝炎	ABC Newsletter, 2004.10.22.8-9	FDA血液製剤諮問委員会は、HBc抗体陽性者に新たな検査方法を加え、供血者のリエントリーを可能とするよう勧告した。
12	B型肝炎	American Society of Hematology 46th Annual Meeting.2259	B型肝炎の既往歴を有する14名の患者に対し実施された同種造血幹細胞移植ではHBVが再活性化しているリバースセレコンバージョンとなる可能性が示された。
13	B型肝炎	Hepatology, 2004,40(5), 1072-1077	カナダの血液透析センターにおいて血液透析を受けている成人患者におけるoccult HBV有病率は、標準的なHBsAg検査が示唆するよりも約4~5倍高い。またウイルス量が少なく、sG145R変異体の保有率が高い。
14	B型肝炎	Vox Sang, 2005, 88(1), 10-16	日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスクドナーはHBV、HCV双方とも、主に若年者で、入院患者とは異なるジェノタイプの分布を有する。HBVのまれなジェノタイプHが日本で初めて発見された。本調査は若年者にHBV、HCVが現在広がっていることの報告である。
15	B型肝炎	英HPA-CDR Weekly	CDSCIに急性B型肝炎感染報告
16	C型肝炎	臨床血液, 2004, 45(8) 280	NAT導入後に、輸血用製剤によってC型肝炎に感染したと疑われる症例1例。
17	C型肝炎	英HPA-CDR Weekly	CDSCIにC型肝炎感染1711例が報告されたことなど記載。
18	E型肝炎	Daily Yomiuri Online,sun 28 Nov 2004	ブタの肝臓を摂取した6名がE型肝炎ウイルスに感染し、うち1人が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。今回の事例は日常的に食品が原因となったヒトへのE型肝炎感染伝播の日本で初の報告事例であると、厚生労働省当局者は述べた。

番号	感染症	出典	概要
19	E型肝炎	IDWR 2004 47週	E型肝炎は経口感染し従来から水系感染しときに劇症化すると考えられており、インド、中央アジア、メキシコ、北アフリカ、中国ではアウトブレイクが起こっている。これに国内での発生動向みると、2002年から2003年にかけては急激な感染の増加が起こっているが渡航歴のない感染者がふえており、国内においてブタ、シカ、イノシシなどを接触する際は注意が必要である。
20	E型肝炎	Infectious Diseases Weekly Report Japan, 2004, 47	2002年から2003年にかけては増加がみられたが、2004年は2003年とほぼ同数である。
21	E型肝炎	J Gastroenterology and Hepatology 2004,19,778-84	複数回の輸血経験群のE型肝炎マーカーは健常者と比較して、有意差が認められた。また、E型肝炎マーカーについて輸血を受けた25症例と受けてない25例とでプロスペクティブ試験をおこなった。輸血前3例輸血後3例が観察期間中にHEV感染が発現した。また、対照群では試験前に2例HEV抗体が検出されたが、残りは発現しなかった。
22	E型肝炎	Journal of Gastroenterology and Hepatology, 2004, 19, 778-784	輸血を受けたことのある患者145人と健常人250人とを遡及調査し、50人の入院患者を対象に前向き調査を行った。前向き調査では、HEV-Ab陰性の被輸血患者22人中3人に輸血後HEV感染が生じた。
23	E型肝炎	Journal of Medical Virology, 74(4), 563-572, 2004	血液透析を受けている患者416名から採取した血清検体と血液透析開始時に採血されていた血清検体について、HEV感染率を調査した。39名がHEV IgGAbを保有し、35名が血液透析開始時に陽性であった。残る4名のうち1名は輸血を受けており、供血者の血清検体からHEV-RNAが検出され、患者から採取したものと検索範囲において同一性が一致した。
24	E型肝炎	WHO/CSR, 2004/9/6	チャドの難民キャンプと近隣の自治体からE型肝炎が疑われる症例1077例と死亡35例が報告された。
25	E型肝炎	WHO/CSR, 2004/9/8	スーダンのある地域の医療機関からE型肝炎と疑われる3753例と死亡症例55例が報告された。
26	E型肝炎	WHO/WER, 2004/9/3	スーダンのある地域の医療機関からE型肝炎と疑われる2431例と死亡症例41例が報告された。
27	E型肝炎	WHO/WER, 2004/9/3	チャドでE型肝炎が疑われる症例959例と死亡30例が報告された。
28	E型肝炎	肝臓,2004;45(suppl3) 第35回日本肝臓学会 東部会講演要旨No.117	輸血後のE型肝炎が示唆されたとの報告である。
29	E型肝炎	厚生労働省HP	ブタの肝臓を摂取した6名がE型肝炎ウイルスに感染した。十分加熱していなかったのが原因と考えられる。
30	E型肝炎	IDSC-IDWR	E型肝炎は、無症状病原体保有者を含め、すべての医師に届け出が義務付けられている。
31	E型肝炎	ProMED	国内の政府研究者らが4県で捕獲されたイノシシからE型肝炎ウイルスのRNAを検出したと厚生労働省の研究グループが報告した。
32	HIV感染	Dvox Sanguinis 86,171-177(2004)	米国血液銀行では、血液製剤の検体を混合して行う、ミニプールNATが導入されている。しかし検体のHIV-RNA濃度が低いため検出できず、輸血によりHIV感染が起こった。単一の検体でNATを行えば、このようなすり抜けは起こらなかった可能性があるが、費用の面でクリアすべき事柄が多い。
33	HIV感染	IDWR 2004 28, 44週	3/29~9/28までの国内のエイズの動向について
34	HIV-1 C型肝炎	米FDA	全血および血液成分提供者からのプールおよび個別検体に対する核酸検査の使用についてのガイダンス(2004年10月)が掲載されている。
35	HIV感染	英SCIEH	世界AIDSデーに、UNAIDSは世界および地域のAIDS推定値および流行の発生の新しい動向について強調しているAIDS Epidemic Update 2004からのデータを発表する記者会見を開催する。
36	HIV感染	CDC-MMWR	世界AIDSデー2004のテーマは、女性、少女、HIVおよびAIDSであり、女性に対するHIVおよびAIDSの影響の増加に焦点を置いている

番号	感染症	出典	概要
37	HIV感染	ProMED	カナダでサーベイランスデータの主な結果は (CIDPC)に報告されたHIVおよびAIDS 診断症例の概要を報告。
38	HIV感染	WHO	HIVに感染した女性の数は、世界の各地域において増加している事が示された。
39	HIV感染	英HPA CDR Weekly	英国の抗レトロウイルス使用経験者および未使用者におけるHIV薬物耐性率の最新情報に関する報告書
40	HIV感染	英SCIEH	スコットランドでHIV検査研究所から感染症例105例が報告
41	HIV感染 B型肝炎 C型肝炎	英国保健省 (Department of Health)	英国で「困窮している小児と血液媒介ウイルス:HIVおよび肝炎」が2004年11月5日に保健省によって発行された。
42	スクレイパー	J Vet Diagn Invest 2004.16(4),316- 321.Hamir AN et al.	ヒツジのscrapie由来試料をシカの脳内に接種した結果、シカの脳内に異常prionが沈着・増殖した。組織病理検査および免疫化学検査においては、シカの慢性消耗性疾患と区別できなかった。
43	アフリカ豚コレラ	OIE Disease Information, 17(48), 2004/12/24	ナミビア共和国のある地域でブタ245頭 がアフリカ豚コレラに感染し29頭が死亡し、残りは殺処分となった。
44	アフリカ豚コレラ	OIE Disease Information, 17(48), 2004/11/26	ブルキナファソ国のある地域でブタ14900頭 がアフリカ豚コレラに感染し601頭が死んだ
45	咽頭結膜炎	Infection Diseases Weekly Report Japan, 2004, 22	咽頭結膜炎の一定点あたりの報告数は0.56件であり、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
46	咽頭結膜熱	IDWR 2004 27、28、 29、30週	咽頭結膜熱の報告数が過去10年間で最高となっている。
47	インフルエンザ	IDWR 2004 34週	アジアでの鳥インフルエンザの伝播と、インフルエンザウィルスの種差の壁をこえて感染することから、ブタに鳥インフルエンザが感染するのは予測できる。実際に中国ではこのことが発表された。
48	インフルエンザ	Emerg.Infect.Dis.2004; 10(7):2004,1321- 1324	既知の症状と異なり、発熱や下痢症状を示しているが呼吸器症状を示していない鳥インフルエンザ罹患患者に関する報告。
49	インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report Japan, 2004, 34	ブタはヒト及びトリのインフルエンザウイルスに感染しうる。中国のブタがトリインフルエンザH5N1型に感染したとの報告があるが、広範囲に広がっているかどうかは不明である。
50	インフルエンザ	New English Journal of Medicine, 2005, 352(4), 333-340	高病原性インフルエンザA(H5N1)がヒトヒト感染したことを示す最初の報告。
51	インフルエンザ	OIE Press releases, 2004/09/01	OIEの要請に応じて、中国で発表されたブタでのH5N1型感染について研究者がデータを提供した。
52	インフルエンザ	ProMED, 20041016- 0020 (オランダ国立感 染症疫学センター)	2003年オランダにおいて、家禽施設従業員・家族の59%からトリインフルエンザH7N7型に特異的な抗体が検出された。ヒトヒト感染が示唆された。
53	インフルエンザ	ProMED-Mail 2004822.2330:Chines e Journal of Preventive Veterinary Medicine 2004;26 (1).Chinese	中国でのブタからのH5N1型及びH9N2鳥インフルエンザウィルスの分離と特性の評価。中国のブタ集団におけるH9N2鳥インフルエンザウィルス感染を確定したのもであると同時にブタ集団でのH5N1型鳥インフルエンザウィルス新興感染の初報告でもある。
54	インフルエンザ	ProMEDのHP (Avian influenza,humans- Japan(Kyoto)(3))	厚生労働省は12/22 2004年2月にニワトリで発生した鳥インフルエンザ流行の際に少なくとも1名が同インフルエンザに感染したが、この感染者からヒトヒト感染の機会なかったと発表した。
55	インフルエンザ	RIVM report 630940004(2004)	オランダにおける鳥インフルエンザNA/H7N7型流行に関して、感染家禽に暴露した人の少なくとも50%が抗H7特異的抗体を保有していたことから、少なくとも1000人に感染したことが予想された。感染された人と家庭内で密接な接触があった人の抗H7特異的抗体の陽性率は59%であったため、大きな規模で感染が発生することが示唆された。

番号	感染症	出典	概要
56	インフルエンザ	SCIEH Weekly Report, 2004, 38(35), 2004/08/31	ブタが遺伝子再集合の場となっている可能性はあるが、まだよくわかっていない。WHOはH5N1および他のインフルエンザウイルスについて研究を奨励している。
57	インフルエンザ	Science, 2004, 306, 241	インフルエンザA型ウイルスに耐性があると考えられていたネコにH5N1型が感染することが示された。またH3N2型は感染が成立しなかった。
58	インフルエンザ	Science, 306,5 NOV 2004	世界的に大流行の脅威を増加させてH5N1インフルエンザウイルスは2003年より2004年の方が環境中でより長く生息でき、このときアヒルが関連していると考えられた。
59	インフルエンザ	The Lancet, infection diseases (4)DEC 2004	タイの動物園で死んだニワトリを餌としてトラに与えていた。これによってトラ102頭への鳥インフルエンザ感染の可能性が考えられた。
60	インフルエンザ	The New England Journal of Medicine, 352(4), 2005/1/27	タイにおけるトリインフルエンザA感染について、ひとつの家族に関して調査をおこない、ヒト-ヒト感染の可能性を明らかにした。
61	インフルエンザ	The New England Journal of Medicine, 2004, 350(12), 1179-1188	ベトナムのトリインフルエンザ患者10症例の臨床所見等について。家禽類から感染したと考えられ、ヒト間の感染についての知見は得られていないが、可能性がある。
62	インフルエンザ	Veterinary record, 2004, 27, NOV	世界的に大流行の脅威を増加させてH5N1インフルエンザウイルスの増殖にはアヒルが関連していると考えられた。
63	インフルエンザ	Veterinary record, 2004, 30, OCT	タイの動物園で死んだニワトリを餌としてトラに与えていた。トラへのHPAIの感染の可能性が考えられ、30頭が死亡し25頭がさらに感染した。とOIEが報告した。
64	インフルエンザ	WHO/CSR, 2004/08/20	中国の獣医学研究所がトリインフルエンザA型(H5N1)によるブタへの初めての感染が確認されたと発表した。データが少なく、WHOは研究所に詳細な情報を求めた。
65	インフルエンザ	WHO/CSR, 2004/08/25	中国の研究者が中国のいくつかの地域における農場のブタが、トリインフルエンザH5N1株に感染したと発表した。中国の農業省は、この研究者の発見を確認した。
66	インフルエンザ	WHO/CSR, 2004/10/29	最近の研究結果(Natureに掲載)によると、アヒルもH5N1型感染能があり、アヒルが無症候でウイルスを排泄していると考えられた。
67	インフルエンザ	WHO/CSR, 2004/12/30	高病原性インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。
68	インフルエンザ	厚生労働省 HP2005/12/22	国内で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関して、防疫作業従事者を対象に抗体価を計ったところ対照群と比べ値が高かった。
69	インフルエンザ	厚生労働省健康局, 2004/12/22	H16年2月京都で起きたトリインフルエンザの集団発生事例において防疫作業従事者58名の抗体価調査を行った結果、抗体陽性となった5名は発症はしておらず、感染が起ったかどうかは断定できない。
70	ウイルス感染	Blood, 2004, 105(5), 1534-1541	合成ソラレン誘導体アモトサレンを用いて光化学処理された血小板製剤の臨床試験の結果、処理群は未処理群に比べ出血傾向の是正には有意差が認められなかったが、血小板増加数低下、血小板輸血間隔短縮及び血小板輸血回数増加が認められた。
71	ウイルス感染	ProMED, 20040514-0110 (East African Standard)	原因不明の疾患で、ケニアで少なくとも20名の小児が死亡した。
72	ウイルス感染	ProMED, 20040609-0020 (The Hindustani Times online)	西ベンガル地方で、小児約200名が発熱し、8名が死亡した。
73	ウイルス感染	ProMED, 20040623-0030, 20040624-0020 (Diario de Sao Paolo, EVTV)	ブラジルで原因不明の疾患で3名が死亡、9名が治療を受けた。
74	ウイルス感染	ProMED, 20040713-0080 (Pak Tribune)	パキスタンで住民数十名がヤギから口蹄疫に感染し死亡したと報道された。

番号	感染症	出典	概要
75	ウイルス感染	ProMED, 20040722-0050 (Australian Broadcasting Company)	パプアニューギニアで原因不明のマラリア様疾患で30名が死亡した。
76	ウイルス感染	ProMED, 20040925-0080 (Fiji Times)	フィジーで原因不明のインフルエンザ様疾患が流行している。
77	ウイルス感染	ProMED, 20041123-0030 (TropNetEurop,11/27)	ニパウイルス感染による死亡例でヒトヒト感染が疑われた。
78	ウイルス感染	ProMED-mail, 20040709,1842 (Viet Nam News Agency, 2004/7/7)	ベトナムで小児に急性脳症を起こしている新種のアルボウイルスが分離された(Nam Dinh virus)。蚊によって媒介される。
79	ウイルス感染	The Lancet, 2004, 364, 869-874	インドで2003年に小児の間でチャンディプラウイルスの急性脳炎の大流行が報告された。329例中183例が死亡し、塩基配列は1965年の株と96.7～97.5%の高い相同性を示した。
80	ウイルス感染	Transfusion, 2004, 44(s1), 16A, S47-0301	感染性不活化技術の一つリボフラビンで処理された血小板製剤は、未処理製剤に比べ代謝亢進や回収率低下、体内生存期間短縮が認められたが、臨床的には有用である。
81	ウイルス感染	Virus Research, 2004, 100(2), 223-228	日本の小児における調査で、SENV-D,SENV-Hとも急性あるいは慢性肝炎には関与しなかったが、SENV-Dは劇症肝炎の危険因子になり得ることが示唆された。
82	ウイルス性上気道感染	感染症学雑誌, 2004, vol78(2), 129-137	広島県の小児の急性呼吸器感染症の患者377名のうち77名がhuman metapneumovirus (hMPV) 陽性で、2つの遺伝子型に区別された。
83	ウイルス性上気道感染	日本小児科学会雑誌, 2004, 108(3), 390-394	急性呼吸器感染症と診断された患者835件の検体からウイルスを分離し、ウイルス分離陰性だった521検体から無作為に選んだ238検体のうち22検体からPCRにより、human metapneumovirusを検出した。
84	ウエストナイルウイルス	aaBB Association Bulletin, 2004/4/15	2003年にWNV-NAT検査が供血者860万人に対して実施され1000人の陽性血が確定し、輸血による6例のWNV感染が確認された。
85	ウエストナイルウイルス	aaBB the Executive Perspective, 2004.3	2003年7月からWNV-NAT検査を400万人の供血者に対して実施し、1000人のWNV陽性供血者を検出した。
86	ウエストナイルウイルス	AABB Weekly Report, 2004, 10(26), 12	英国は、WNVリスク地域(米国、カナダ)へリスク期間(6月1日～11月30日)に渡航歴がある人に対して、28日間の供血延期措置を行っていたが、献血血液のWNV検査を導入し、これを撤廃した。
87	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter, 2004/11/5	FDAはウエストナイルウイルスに対する供血延長期間を28日から56日に拡大することを勧告した。
88	ウエストナイルウイルス	CDC MMWR, 53(32); 738-739, 2004.08.20	ジョージア州でWNVに感染した患者2名は同じ透析機を用いており、同じ透析機を使用した患者はもう一人いることが分かったが、この患者は検査結果は疑わしかったもののWNVと確定できなかった。
89	ウエストナイルウイルス	CDC MMWR, 53(36); 842-844	2004年にアメリカのアリゾナ州で確認された輸血関連WNV感染の症例報告について。
90	ウエストナイルウイルス	HHS, FDA/ 80th meeting of Blood Products Advisory Committee, 2004/07/23	血液製剤諮問委員会(BPAC)においてCBERからWNVに関するプレゼンテーションがあった。供血停止期間を56日に延長することが検討されている。
91	ウエストナイルウイルス	ProMED, 20040520-0060 (Pork Magazine, 2004/05/18)	若いブタはウエストナイルウイルスへの感受性が高い可能性がある。
92	ウエストナイルウイルス	ProMED, 200501259-0070 (ウイルス学生物工学研究センター 1/24)	ウエストナイルウイルスが現在ロシア極東地域で循環していることが確認された。
93	ウエストナイルウイルス	Transfusion, 2004, 44,1695-9	ミニプールでNATをおこなったが、西ナイルウイルスがすり抜け感染した。

番号	感染症	出典	概要
94	寄生虫感染	Acta Tropica(Netherlands)2004,231-236	メキシコで初めて、牛由来のエキノコックス症に感染した患者が報告された。
95	狂犬病	ProMED, 20040528-0120 (All Africa)	ケニアで狂犬病のイヌにおそろわれ、住民6名と乳牛が死亡した。
96	狂犬病	ProMED, 20040621-0020 (Epidemiological Bulletin)	2004年はイヌの狂犬病が80例、ウシの狂犬病が2例報告された。
97	狂犬病	ProMED, 20040722-0180, 20040803-0030 (The Messenger, OIE)	グルジアでウシの狂犬病が15例発生し、7名の狂犬病患者が発生した。
98	BSE	J Vet Med B Infect Dis Vet Public Health 2004,51(5),209-215.Miyashita M et al.	ドイツのバイエル地方で臨床症状からBSEの疑われたウシ26頭の脳について、組織病理学および免疫学的両面から検証した。このうち6頭は明確なBSE反応がみとめられ、他20頭は他の疾患であった。
99	クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News/10 Novenber,2004	アイルランド共和国において、英国滞在レキのないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことがなく、供血もしたことがない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
100	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 14(39)2004/9/23	英国の血漿ドナー9例がvCJDを発症したことがわかっている。関連のある血液製剤からのvCJD感染のリスクは不明であるが、CJD Incidents PanelはCJD伝播の可能性のある事例の管理に関するアドバイスを提示し、血液製剤からのvCJDのリスク管理に関する勧告を発表した。
101	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting,UK/February 2003	英国海綿状脳症諮問委員会 (SEAC) の勧告をもとにして英国保健省から委託をうけた英国のコンサルト会社のDet Norske Veritas (DNV) がvCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るためにvCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行いさらにリスク削減を目的とした手段の有効性を考察したものであり、2003/2に最終報告として発行された。
102	クロイツフェルト・ヤコブ病	Committee for medicinal products for human use ,21Oct 2004,EMEA	vCJDのリスクに関する血しょう由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン
103	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004, 10(14), 9, 2004/4/9	Mimetic Regand技術に基づいたフィルターでvCJD感染血液を処理したところ、in vitroでは検出限界まで感染性プリオンタンパクは除去され、in vitroでは感染レベルの有意な低下が見られた。
104	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report, 10(38), 2004/10	アメリカにおけるCJD伝播防止対策に関する報告。現行の規制を変更しないこと、CJD患者からの受血例342例については感染例はない。
105	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report, 2004, 10(38), 1-3	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し現行のままでいくこととした。
106	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report, 2004: 10(21), 3	ヒト血液中の異常プリオンタンパクを検出できる検査法を開発したと、研究者が発表した。
107	クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter, 2004.12.17	オランダは血液を介したvCJD伝播の懸念から、2004/12/9供血に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。
108	クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter, 2004: 10(38)1-3	フランスで8例目のvCJDが報告された。血しょう分画製剤による伝播の証拠はない。
109	クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter, 2004, 41, 6-7	フランスで8例目のvCJD患者が確認され、10年間に10回の供血をしていたことがわかった。患者は存命中の若年者で、血漿分画製剤88バッチに使用され、16バッチを回収、残りは使用又は廃棄されていた。
110	クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News/10 Novenber,2004	アイルランド共和国において、英国滞在レキのないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことがなく、供血もしたことがない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。

番号	感染症	出典	概要
111	クロイツフェルト・ヤコブ病	Cambridge Healthtech Institute 2004	Pallフィルター・シリーズ(Pall Co.)はPrPscを99%以上除去する。
112	クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health, press releases notices 2004/0270, 2004/07/22	イギリスにおいて、vCJDを発症したドナーからの輸血を介しての2例目のvCJD伝播が確認された。輸血を受けた患者の検死により脾臓にvCJD病原体が確認された。(2004年4月5日から1980年1月以降に輸血をうけたヒトは血液ドナーから除くことになっている。輸血を受けたどうかが明確でないドナーと、輸血を受けたことのあるアフエーシスドナーの排除を2004年8月2日から施行する。)
113	クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health, press releases notices 2004/0326	英国保健省によると、vCJD確定診断死亡例が104例となった。
114	クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health, press releases notices 2004/0341	血液製剤を介したvCJDの伝播の可能性に関して英国保健省から発表があった。
115	クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 22 July 2004	イギリスにおいて、輸血制限対象として新たに受血歴不明の供血者と受血経験のある血しょう成分提供者を追加。
116	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting UK, 2003Feb	英国保健省が2004年9月に、vCJDを発症した患者からの血漿分画製剤を投与されたレシピエントへの通知を行ったことに関して、2003年2月のNet Norske Veritas(DNV)が行ったリスク評価の結果が根拠となっている。
117	クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA/CPMP/BWP/2879/02/rev1, June 23 2004	2004年1月の会議結果を反映させた、CPMP Position statement on Creutzfeldt-Jakob Disease and Plasma-Derived and Urine-Derived Medicinal Products (2003年2月通知)の修正版。
118	クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA/CPMP/BWP/CPMP/5136/03, 21 Oct. 2004	vCJDの異常プリオンがヒト血漿中で存在したとしても血漿分画製剤の製造工程で、感染性が減少することが報告されている。異常プリオンの除去効果を評価するためのガイドライン。
119	クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service, Press Releases 2004.10.31	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国滞在歴や手術歴などに新たに供血者制限を入れた。
120	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Clin Invest 113(10):1465-1472	ハムスターにスクレイピータンパクを1回摂取させ、啓示的に筋肉への蓄積を調べたところ、症状が発現する前の摂取後130日目に筋肉にプリオンタンパクが確認された。筋肉への広がり運動神経を介していると思われる。
121	クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of Neuroscience 24(50),1280-11290,2005	プロテアーゼ抵抗性ヒトプリオン蛋白とフェリチンが小腸上皮細胞より一緒に輸送される:sCJDの脳ホモジネートを消化酵素処理をするとプリオン病の伝播および病原性を示すプロテイナーゼK抵抗性の異常プリオン蛋白のコア成分と類似性のフラグメントが生じる。正常プリオン蛋白の発現量にかかわらず、DE処理によりヒト腸管上皮細胞バリアのインビトロモデルを通り抜ける異常プリオンたんぱく質複合体が形成された。予想に反し、異常プリオン蛋白質はDE処理した異常プリオン蛋白複合体の主要蛋白成分であるフェリチンと一緒に輸送された。異常プリオン蛋白とフェリチンの輸送は低温度に感受性があり、過剰の有利フェリチンにより疎外されることから、レセプターおよびトランスポーターによる仲介経路が存在するものと思われる。異常プリオンたんぱく質に会合するたんぱく質、特にフェリチンは遠い動物種でもその腸管からのPrPscの取り込みを容易なものとし、それによって人はキャリアーの状態をもたらす可能性があることが示唆された。
122	クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of comparative Pathology, 2005: 59-69	実験的にBSEを感染させたヒツジは症状発現前の扁桃腺バイオプシーサンプルにPrPscが検出される可能性が示唆された。
123	クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of Pathology, 2004; 203: 733-739	リンパ網内系の検体12,674(扁桃及び虫垂)のうち、虫垂3検体からプリオンタンパク質のリンパ網内系への蓄積を示した。
124	クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of General Virology, 2004, 85, 3159-3163	BSEを経口摂取したヒツジから子羊が母子感染する頻度は臨床的にBSE感染したヒツジからの母子感染より頻度は低いことが示唆された。

番号	感染症	出典	概要
125	クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet.2004.364、527-529	vCJDを発症したドナーからの輸血を受けた後、五年後に神経学的疾患以外の疾患が元で死亡した患者におけるvCJD感染が解剖で検出された初めての症例の報告。脾臓におけるプロテアーゼ抵抗性蛋白がウエスタンブロットなどによって同定されたが、脳には発見されなかった。プリオン蛋白の免疫組織化学では、子宮頸部リンパ節においても、陽性反応がみられた。この患者はPRNPのコードン129がヘテロ接合体であり、これはvCJD感染症に罹りやすいのはメチオニンホモ接合体のPRNPジェノタイプに限定されないことを意味している。これらの知見は英国におけるvCJDの今後の発症予測とサベランスについて重大な示唆を含むものである。
126	クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet.2004.364(9433)、529-531	輸血用の血液の場合、白血球を分離除去することでプリオン病の感染が防止できるかについて検討した。ヒツジのスクレイピーを感染させたハムスターの血液から白血球を除いた分画を別の動物に輸血した。感染率は大幅に低下したが、かなりの程度で感染が見られた。
127	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED, 20040910-0060	英国保健省は9/6に報告があったCJD患者数を公開した。
128	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED, 20041124-0040 (Expatica, AFP記事)	フランスで9例目となるvCJD患者の頻回献血が報告された。該当血液はすでに使用されているため、受血者の追跡調査を開始した。
129	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED, 20050129-0060 (EU食品局安全ウェブサイト1/28)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果陽性であることが判明した。これはウシ以外の食用動物が牛海綿状脳症に感染した初めての事例である。
130	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMetic Life Sciences Inc. 2004/08/03	PRDT社は赤血球製剤のプリオン除去フィルターを2005年までに上市することを目標としている。
131	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMetic Life Sciences Inc., press release, 2004/08/03	血液及び血液由来製剤から選択的に病原体を吸着し除去するフィルター製品の上市を計画している。
132	クロイツフェルト・ヤコブ病	Science, 2004; 306, (5702): 1793-1796	129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質はvCJDの発現を阻止する。
133	クロイツフェルト・ヤコブ病	Science, 305, 673-676, 04/07/30	人工的なプリオンの合成に成功し、そのプリオンをマウスの脳に投与したところとBSEと同様の症状を示した。タンパクだけでも感染症の原因となりうることを示唆される。
134	クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress 11 Nov,2004	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染はプリオンソース及びレシエントの遺伝子の如何により、孤発性及び変異型に加え、新規の表現型をもたらす可能性がある。
135	クロイツフェルト・ヤコブ病	Story from BBC News, 2004/10/24	アイルランドでvCJDに感染したと見られる20代男性について確認検査が行われている。輸血歴・渡航歴はない。アイルランドでは1例目。
136	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省HP、報道発表(2004/11/1)	BSE感染が確認された農場で死亡した94ヶ月齢の牛(国内11例目)の各種組織における異常プリオンたんぱく質の蓄積について調査したところ、坐骨神経の末梢神経組織や副腎から、わずかな量の異常プリオンたんぱく質がウエスタンブロット法によって検出された。
137	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省HP2004/11/1	動物衛生研究所プリオン病研究センターにより、初めてBSE感染牛の末梢神経組織や副腎が検出されたと報告された。
138	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省HP2005/2/4	2005/2/4のCJDサベランス委員会及びCJD等検討会が開催され、2001/12に40歳代で発症し死亡した男性患者が国内最初のvCJDであると確定された。
139	クロイツフェルト・ヤコブ病	EU・EMEA	英国で変異型クロイツフェルト・ヤコブ病のリスクに関する血漿由来医薬品の製造工程の査察についてのガイドラインが掲載されている。
140	クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Canada	フランス保健省は(vCJD)患者から献血された血液の受血者追跡調査を開始した。
141	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED	アイルランドでの男性の新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病感染疑い患者が診断確定した場合、アイルランド食品安全局は、この男性が10年から15年前に、アイルランド国内で汚染された牛肉製品を摂取して感染した可能性が高いと考えている。
142	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED	最近アイルランドで患者1名が、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の可能性があると診断された。



番号	感染症	出典	概要
143	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED	医学研究審議会プリオン部のチームが公表した新規研究結果により、なぜある特定の遺伝子構成をもつ個人のみが、変異型CJD をこれまでに発症したかの説明が提起された。
144	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED	輸血用血液の安全性確保に関して高まる懸念。
145	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED	最近発表された研究によれば、ヒトPrP遺伝子を発現させた遺伝子組み換えマウスにおける変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の発生は、ヒトPrP遺伝子の129コドンがメチオニンホモ接合体であったマウスにおいてのみ発生した。
146	クロイツフェルト・ヤコブ病	英HPA	英国でvCJD診断確定死亡症例。
147	クロイツフェルト・ヤコブ病	英SCIEH	スコットランド保健相は血漿製剤による治療を介したvCJD感染因子の伝播の可能性に関連した患者通知についてのアウトラインの詳細を説明。
148	クローン病	Lancet.2004,364(9432)396-7	Mycobacterium avium subsp paratuberculosisがクローン病の原因となる根拠を述べて感染経路について考察している。
149	クローン病	Lancet.2004,364(9439)1039-44	Mycobacterium avium subsp paratuberculosisがクローン病の原因となる根拠を支持するデータが得られたことを述べて感染経路について考察している。また、オーストラリアのクローン病に対するマクロライド系抗生剤物質治療の臨床試験の大成功についても触れている。
150	クローン病	Medecine Veterinaire du Quebec2004,34(1-2),90-92	Mycobacterium avium subsp paratuberculosisがクローン病の原因となる根拠を述べて感染経路について考察している。
151	結核	ProMED, 20040525-0080 (South African Broadcasting Company)	EasternCapeで4カ所の牧場が隔離され300頭以上の結核に感染したウシを屠殺した。
152	結核	ProMED, 20040715-0030, 20040718-0050 (Gloucestershire the citizen, Farmers Weekly Interactive)	英国でのウシ型結核の流行について。
153	結核	ProMED, 20040819-0050 (The NewZealand Herald)	ニュージーランド国内において2013年までにウシ結核を7群以下に減少させたいとする希望は、新たな流行により後退している。
154	結核	ProMED, 20040828-0040, 20040830-0030 (AFP, Yahoo News)	ウシ結核症がモザンビークで流行している。健康被害やウシの死亡は報告されていない。
155	原因不明の脳症	ProMED, 20040612-0060 (Veterinary laboratories Agency, The Veterinary Record, 154(24))	イギリス及びウェールズで牛のボツリヌス中毒と疑われる症例を認めていたが、ボツリヌスではなく原因不明の新たな疾患(四肢麻痺)であると、イギリス獣医学研究所は考えている。
156	原虫・肺炎・レプトスピラ症	Veterinary Record(VET.REC.)(United Kingdom)2004,28AUG, 255-258	①コクシジウム症の増加が確認された。②子牛に肺炎の発症の増加が確認された。③幼牛にLeptospira Hardjoの発症の増加が確認された。
157	原虫・サルモネラ症	Veterinary Record(VET.REC.)(United Kingdom)2004,02OCT, 409-412	①8月にNeospora Caninumの深刻な流行の発生が報告された。②サルモネラ症例の急増が報告された。
158	口蹄疫	OIE Disease Information, 17(38), 2004/09/17	ブラジルで口蹄疫ウイルスC型が1件発生したが、ウシ(疑い例34例)、ブタ(疑い例1例)の中で、感染源を調査中。
159	口蹄疫	ProMED, 20040424-0020 (Xinhuanet news)	ザンビアで2004年2月に発生した口蹄疫の感染が広がっている。

番号	感染症	出典	概要
160	口蹄疫	ProMED, 20040618-0070 (ABC Adio Australia News)	カンボジアでウシ及びアジアスイギュウ2000頭以上が口蹄疫に感染した。
161	口蹄疫	ProMED, 20040713-0090 (Xinhuanet)	口蹄疫が疑われる流行がザンビアで発生し、1200頭が発病した。
162	口蹄疫	ProMED, 20040715-0100, 20040809-0060 (SABC news, OIE)	口蹄疫SAT2型が南アフリカで流行した。ウシ18,000頭が暴露され、2,500頭が発症した。
163	口蹄疫	ProMED, 20040903-0130 (Sapa-AFP via Mail&Guardian online)	ジンバブエで確認された口蹄疫流行は、全国各地に拡大して、家畜の8000頭が感染した。
164	口蹄疫	ProMED, 20050123-0080	フィリピンで9年ぶりに口蹄疫の発生がなかった。
165	口蹄疫	Veterinary Journal, 168(1): 93-99	ボツワナでウシの口蹄疫が発生した。単利されたウイルスはSouthern African Territories type SAT-2だった。
166	口蹄疫	OIE Disease Information, 18(1) 2005/1/8	コロンビアで発生した口蹄疫の流行は終焉を迎えた。
167	口蹄疫、炭疽	ProMed, 20040612-0010 (新華社通信)	タンザニアのザンジバル諸島で口蹄疫と炭疽の流行が発生し、400頭以上が死亡。
168	コレラ	ProMED, 20040917-0010	西チモールでニワトがニューカッスル病により、ブタが豚コレラの疑いで大量に死亡した。
169	コロナウィルス感染	Journal of Infection Disease, 2004, 191, 492-498	米国において五歳未満の症状がある小児から採取した気道標本895例中79例から新種のヒトコロナウィルスが検出された。
170	コロナウィルス感染	厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報2005/1/20	エール大学の研究チームが発見したコロナウィルスについて、5歳以下の患児を検査すると9%が保有していた。また川崎病患者からも高頻度で保有が認められた。コロナウィルスは診断同定の検査法が最近までなかった。
171	細菌感染	Journal of Clinical Microbiology, 2004, 42(10), 4759-4764	血小板製剤中に存在する細菌を検出するため、23SrRNAまたはgroEL遺伝子を利用したreal-time RT-PCR法が開発された。
172	細菌感染	日本輸血学会誌, 2004, 50(5), 726-729	敗血症性ショックを呈した7ヶ月男児の血液および血小板製剤からM.morganiiが検出され、輸血後感染が示唆された。
173	細菌性胃腸炎	IDWR 2004 49、50、52週	細菌性胃腸炎の報告について
174	細菌性髄膜炎	IDWR 2004 40、46週	髄膜炎の報告数について
175	サルパルポウィルス感染	Journal of Infection Disease 190(11)1900,2004	サルパルポウィルスに対する抗体陽性のマカクサルコロニーの取り扱い者の血清サンプルについてサルパルポウィルス抗体をしらべた。その結果、暴露された人で、51%の陽性率であったのに対し、暴露されなかった人では35%であった。また、ヒトサルパルポウィルスB19ベースのELISAではサルパルポウィルスはヒトの骨髄単核細胞でも増殖し赤血球前駆細胞に毒性があることを示した。これらのことから、サルパルポウィルス人獣共通感染症である可能性が示唆された。
176	サルモネラ症	Emerg.Infect.Dis.2004; 10(12):2225-2227	オランダの農場でヒト、ブタおよび仔ウシから多剤耐性サルモネラが単離された。ブタヒト感染の可能性はある。
177	サルモネラ症	Emerg.Infect.Dis.2004; 10(9):2004,1674-1676	台湾の監視システムによるとコレラライス血清型サルモネラ菌のフルオロキノロン耐性は2000年から2003年には70%に達している。感染源は飼育豚である可能性が高い。フルオロキノロンが重症のサルモネラ感染症の治療薬であることから、この耐性は重大な話である。
178	サルモネラ症	Epidemiol .Infect.2004;132(5)881-887	ドイツではまれな血清型である、サルモネラ菌種が2001年に分離された。発酵ソーセージの消費と関連性が示唆された。

番号	感染症	出典	概要
179	神経系障害	ProMED, 20040609-0080, (BBC News, Medical.net, Veterinary record)	英国で幼若なウシの麻痺や死亡の原因となる原因不明の脳障害の事例があった。非跳躍病ではない神経好性ウイルス感染症の特徴を有する化膿性壊死性灰白脳脊髄炎は、過去10年間に21例報告されている。エンテロウイルスが病因として可能性が高く、人の健康への驚異となる可能性は低い。
180	神経系障害	ProMED, 20040610-0010, 20040612-0060 (BBC News, Veterinary laboratories Agency, Veterinary Record)	イギリス及びウェールズでウシのボツリヌス中毒と疑われる症例を認めていたが、ボツリヌスではなく原因不明の新たな疾患(四肢麻痺)であると、イギリス獣医学研究所は考えている。
181	大腸菌性胃腸炎	PROMED-Mail 20040914.2564:Organ geville(on)Banner	ブタロースト大会に参加後2名が腸管出血性大腸炎O157陽性となった。調査では病原性大腸炎の感染源は特定されておらず、パーティーで供された食品の検体は検査用に入手できなかった。
182	炭疽	Canadian veterinary journal.La revue veterinaire canadienne 2004,45(6),516-7	2004年1月中旬に牛の突然死が170頭発生した。その後も突然死が続いた。開業医と州及び国の研究機関で連携し、調査した結果、炭疽菌によるものであることが判明した。
183	炭疽	ProMED, 20040925-0100 (Times of Zambia)	ザンビアで炭疽により4人が死亡、18人が入院、ウシ20頭が感染した。
184	炭疽	ProMED, 20040428-0030	アルメニアで炭疽の流行が確認された。
185	炭疽	ProMED, 20040511-0040 (Interfax)	グルジアで炭疽菌に汚染されたウシを食べた住民8名が罹患した。グルジアでは毎年家畜の炭疽感染が発生している。
186	炭疽	ProMED, 20040702-0070	ルーマニア東部で炭疽により男性2名が入院した。
187	炭疽	ProMED, 20040703-0110, 20040710-0020, 20040710-0040, 20040715-0020	カザフスタン各地で起きた炭疽感染について。
188	炭疽	ProMED, 20040715-0040	イスラエルでウシ炭疽症例2例が確認された。
189	炭疽	ProMED, 20040715-0130 (Australian Broadcasting Company, Phayul)	中国で男性1名がウシから炭疽に感染し死亡した。中国では毎年少数の炭疽症例が発生している。
190	炭疽	ProMED, 20040722-0150 (Xinhuanet, UB Post)	モンゴルでは2004年前半に20名が炭疽と診断された。
191	炭疽	ProMED, 20040726-0100, 20040805-0020, 20040814-0050 (Interfax)	キルギスタンでウシ屠殺中に3名が炭疽菌に感染した。ウシは隣国のウズベキスタンから購入されたウシであった。キルギスタン南部では毎年複数の複数の患者が報告されている。
192	炭疽	ProMED, 20040801-0030	アメリカの牧場で炭疽に感染したウシ8頭が死亡した。
193	炭疽	ProMED, 20040804-0100 (Avesta web site, Associated Press)	タジキスタンで汚染された牛肉を食べて7名が炭疽に罹患した。
194	炭疽	ProMED, 20040813-0050 (Regions.Ru)	グルジアで炭疽患者4名が入院した。3名は屠殺に関わり、1名は汚染された牛肉を購入していた。
195	炭疽	ProMED, 20040813-0060, 20040830-0040	炭疽感染によりウシ、クーズー、オジロジカが各1頭死亡した。

番号	感染症	出典	概要
196	炭疽	ProMED, 20040903-0120 (Mosnews)	ロシアで炭疽患者10名が報告された。
197	炭疽	ProMED, 20040924-0060 (SIFY News)	西ベンガル地方で炭疽に感染した牛の肉を摂取した住民13名が炭疽に罹患した。
198	炭疽	ProMED, 20041001-0010 (The Free Press of Namibia, All Africa)	ボツワナで起きた炭疽流行がナミビアに拡大し、家畜数十頭が死亡した。
199	炭疽	ProMED, 20041001-0020	イタリアで炭疽事例が多発し、ウシ54頭、ウマ7頭、ヒツジ11頭、アシカ4頭の症例が確認された。獣医師2名が皮膚炭疽症を発症した。
200	炭疽	ProMED, 20041010-0010	イタリアで炭疽菌が分離され、ブタ症例が確認された。
201	炭疽	ProMED, 20041010-0010	西チモールでニワトリがニューカッスル病により、ブタが豚コレラの疑いで大量に死亡した。イタリアで炭疽菌が分離され、ブタ症例が確認された。
202	デング熱ウイルス	Clinical Infectious Disease, 2004,39(6), e56-60	デング熱患者の血液飛沫を顔面に受けた医療従事者が、ウイルスに感染した。蚊を媒介とせず、皮膚粘膜を介して伝播したと考えられる最初の症例。
203	トリロタウイルス	第52回日本ウイルス学会学術集会 2004/11/21-23	トリロタウイルスがウシだけでなくヒトにも感染が確認された。
204	不明	ProMED, 20040709-0110 (All Africa)	ザンビアで約500頭のウシが原因不明の疾患で死亡した。
205	不明	ProMED, 20041004-0050 (Angola Press)	アンゴラでウシが原因不明の疾患で死亡した。詳細不明。
206	不明	ProMED, 20050130-0010	マレーシアにおけるブタの大量死の原因がパニウィルスやブタコレラではなかった。
207	不明	ProMED, 20050216-0410	インドにおいてブタが大量死した。
208	ブルセラ症	ProMED, 20040722-0040 (La Prensa)	パナマでウシブルセラ症が流行している。感染した60頭のうち27頭は処分された。
209	ブルセラ症	ProMED, 20040726-0060 (AP電)	米国でウシのブルセラ症が発見されたため、牧草地の扱いに議論がなされている。
210	ブルセラ症	ProMED, 20040804-0080 (IRIN)	カザフスタンでブルセラ症患者数が増加しており、近隣国からの動物の密輸と関係している。
211	マイコプラズマ性肺炎	IDWR 2004 46、48、50週	マイコプラズマ性肺炎の報告について
212	リフトバレー熱	ProMED, 20040920-0040 (The Saudi Gazette)	サウジアラビアでリフトバレー熱によりウシ4頭が死亡した。
213	リューシュマニア症	Journal of Infectious Disease, 2004, 189(6), 1018-1023	リューシュマニアに特異的なDNAが患者32人中30人の癩痕で検出された。臨床的に治癒しても、パラサイトが完全に除去されることはまれであることを示唆する。
214	ロタウイルス胃腸炎	第52回日本ウイルス学会学術集会 2004/11/21-23	ラテックス凝集試験を用いた抗体試験でA群トリロタウイルスPO-13株が人獣共通感染症の病原体である可能性がはじめて示された。